

UNITE
FOR
GOOD

2025～2026年度
RI会長メッセージ

よいことのために手を取りあおう

WEEKLY REPORT

APRIL.15.2026 第2181回

UEDA EAST
上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

会長/山寺高太郎 幹事/倉島博 会報委員長/松山賢太郎

例会:毎週水曜日 午後12:30～1:30

会場:上田東急REIホテル

事務局:上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F

TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>

E-mail: uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

ロータリー、知っておきたいこと



滝澤 修一君

今年度のIM・会員セミナーに参加した際、「クイズで学ぶロータリー」で大勢の会員がRCの歴史等についてあまり知らないんだと感じ、またセレモニーで、壇上の役員らがロータリーソングを国旗の方を向いたまま歌っていたことに、これはちがうなと感じました。そんなことから「ロータリー、知っておきたいこと」と題して話してみます。

RCは「親睦」と「奉仕」を目的とする団体です。しかし、RC創立時は違いました。ポール・ハリスは1935年来日した際、「どうしてRCを作ったのか」と聞かれ「寂しかったから」と答えたそうです。RC創立の1905年当時のシカゴは人口200万人の都市でした。その中の疎外感がRCを作らせたのです。そんな発想から創立時のRCは会員を1業種1人とし、目的は「会員の相互扶助」と「親睦」でした。要は、会員同士助け合ってお互いに事業を成功させようということです。その結果、会員のほとんどが成功するのですが、世間からは、エゴ団体との批判を受けることにもなりました。そのためRCは、やがて「奉仕」の思想に至ります。しかし、クラブ内では、親睦派と奉仕派の激しい論争を生むこととなります。ポール・ハリスは、奉仕派の先頭となったそうです。この議論は、今では克服され「奉仕も、親睦も」となっているのではないのでしょうか？

また、「奉仕」についても議論があります。それはライオンズクラブとの対比で語られてきました。その違いは「I Serve」と「We Serve」だと言われます。RCは、「I Serve」が基本的理念だとされ、職業奉仕という考え方に象徴されます。(ただし、最近では、RIでは職業奉仕はあまり言われなくなっているとの指摘もあります。)これに対し、ライオンズクラブは「We Serve」が基本で、団体として社会に奉仕しようとしします。しかしながら、最近では、RCも「公共イメージと認知度の向上」という課題を掲げるようになりました。今は、どちらが正しいのかという議論ではなく、それぞれの課題に向かっていくことが必要です。

次に、ロータリーソングについて。なぜ例会でロータリーソングを歌うようになったのか、その始まりは深刻な理由でした。先ほど述べた「親睦派」と「奉仕派」の激しい対立はRCの解散を危惧させるほどになりました。これを和らげようと考え、歌を歌うことで少しでも和やかな例会にしようとして、毎回の例会で歌うようになったのです。ですから歌う歌はロータリーソングである必要はなく、また、歌うときは、国歌斉唱と違って、旗に向かず皆の顔を見ながら歌うのがいいのだと思います。

1920年、日本で最初のロータリークラブ、東京RCが創立され、徐々に増えていきます。当初は英語のロータリーソングが歌われていましたが、日本語のロータリーソングを望む声が強くなり、1935年地区大会で募集した新作の発表がなされました。1位当選は、「奉仕の理想」でした。また「我等の生業」(作詞は長野県出身の高野辰之です。)も発表されました。「奉仕の理想」については悲しい逸話があります。作詞は、京都RCの前田和一郎氏という国際派の活動的なロータリアンでした。当初、応募した原詞は「世界に捧げん我等の生業」だったので。それが、当時のガバナーから「御国に捧げん…」に変えなければ当選を無効にすると言われたのです。前田氏は涙を吞んで変更を承認したのですが、友人には「いつの日か戻してほしい」と言っていたそうです。1931年に満州事変が、1937年には支那事変が起きる時代でした。

こんな歴史を持ったロータリーソングであることを知っておいてください。上田東RCには「あしたはもっと」という素晴らしいロータリーソングがあります。創立20周年の記念事業として、当時の会員であった龍野さんと金子さんの作です。なお、例会で国旗を掲揚し国歌を歌うようになったのにもつらい歴史があります。戦前、RCはアメリカのスパイだなどと攻撃され、自らが愛国団体であることを示すために、国旗を掲揚し国歌を歌うようになったのです。ここにも当時の歴史的背景をみることができます。今、私達が自由な意思で行えることの大切さを考えましょう。まだまだ、会員資格の問題や日本のロータリーの歴史についてなど話したいことはたくさんありますが、時間の関係で今日はここまでとします。

- 司会 手塚達也君
- 斉唱 「あしたはもっと」
- ビジター 村井總一郎様 (豊橋RC会員2018-19年度第2760地区ガバナー)
- ラッキー賞 柳澤 亨君 (季節のアレンジ花)
- 友愛賞 村井總一郎様 (山寺会長より)
水出博史君 (塚田君よりレモンのお菓子)
柳澤 誠君 (田守君よりレトルトカレーセット)



■会長挨拶

山寺 高太郎 会長



世界の柔道のメッカである講道館の創始者の嘉納治五郎師範は、上田に2回も訪れ、その後 灘高校を創立したり、日本がオリンピックに参加することに尽力した教育家でもありました。

その彼の言葉に「精力善用・自他共栄」という言葉があります。この二つの言葉は、ほとんどの人が知っています。特に、柔道を始める人、あるいは柔道場にはこの言葉が掲げられています。しかし、もうひとつ大切な言葉があります。それは「相助相譲」という言葉です。「相助相譲」とは、文字通り「互いに助け合い、互いに譲り合う」と書きます。そして、精力善用の善とは、互いに信頼し、協力・融和することによって社会は発展することを意図しています。この精神や考え方を「相助相譲」と言います。その結果として自他共栄があると説いています。

嘉納治五郎師範は、人間が社会生活を営む上で、この「相助相譲」の精神こそが、組織や社会の存続と発展に不可欠であると説きました。ロシアのプーチン大統領が本当の柔道家であるならば、この言葉を説き、世界を安全で安定した方向に導いて欲しいと思います。もちろん夢物語だとは思いますが。人間の恨みと欲そして宗教とは本当に恐ろしいものだと思います。

さて、話題のトランプさんに会った人50人の印象をウォールストリートジャーナルが2018年1月19日掲載記事を、ジャーナリストの櫻井よしこさんの著作からご紹介します。

- 話題が突如、あらぬ方向に変わる。
- 演説の最中に他の話題を差しはさんだり、聴衆の中に知人を見つければ呼びかけ、一貫した話にならない。
- 非常にあけすけに対象人物を侮辱する。
- 説得されて考えを変えることがある。

- 説得するには、トランプ氏の直観は正しいという大前提に立ち、実際には彼の考えと正反対の助言をすると、その方向で考えを変えることがある。
- トランプ氏の指示を実行するのに時間をかけると、その間に考えが変わることがある。
- 率直な助言には耳を傾ける。
- 共和党の重鎮議員には国賓用の椅子を用意する。
- 議員の子供にもエアフォースワンのロゴ入りチョコレートを与えるなど優しい。
- ゴルフコースで、どの木が枯れていて、どの木の枝を切るべきで、どの植物がどんな菌類におかされている等、わかりにくいことをしゃべる。

私が知っている限り、一般的に若くして創業して成功した高齢者が持っている特長かなという感じがします。本日もよろしく願いいたします。

●村井總一郎氏 (豊橋RC会員) 訪問

山寺会長の大学時代からのご友人とのこと。第2760地区パストガバナーです。尚、当クラブ創立の時の地区ガバナーは豊橋RCの森泰樹氏 (当時は愛知県と同じ地区でした)。ご縁がありますね。



■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	52	49	17	—	65.31%
前々回	52	49	22	14	86.67%

ニコニコBOX

(敬称略)

村井總一郎、飯島 (洋)、石井、上原、上條、久保、倉島神津、小林、佐藤、塩之入、関、滝澤 (修)、竹花、玉井田守、塚田、手塚 (達)、中嶋、橋詰 (洋)、舟見、松山蓑輪、母袋 (創)、柳澤亨、山寺、渡辺

※村井總一郎様/山寺会長に敬意を表して訪問させて頂きました。

※山寺高太郎君/大親友の村井君、ようこそ当クラブへ。

※神津 健君/村井様、上田東RCにようこそ。

※田守正彦君/村井様、本日はようこそ。

※上原 達君/滝澤先生スピーチよろしくお願ひします。

※竹花 強君/滝澤先生、卓話楽しみにしています。

※蓑輪佳明君/柳澤さんの「災害に備えて防災ガイド」信濃毎日新聞の記事、読みました。

※塩之入永子君/19年の年月よく頑張りました。

※母袋創一君/周年、結婚祝い、共に有難うございます。

※手塚達也君/誕生日祝い、家族で美味しく頂きました。

※渡辺敏成君/ゴルフ・ワインと遊ぶことのみなのですが、仕事はちゃんとしています。

本日の金額/38,000円 累計/1,033,000円